

次の文章を読みながら、大事なところに線を引きなさい。

錬金術とは、さまざまな金属から金を作り出そうとする秘術である。

古代ギリシアで活躍したアリストテレスは、全てのものは火、空気、水、土の四大元素からできていると考えた。この考えをもとにして錬金術が生まれた。

錬金術は、文化の中心として栄えていた古代エジプトからイスラム世界へと伝わった。その後、十二世紀にヨーロッパへ伝わって、多くの人々に研究された。

錬金術師たちは、あるものをよりよいものに変える賢者の石を作ろうとした。賢者の石を使えば、銅を金に変えることもできると考えられた。また、賢者の石は、エリクサーの材料ともいわれる。エリクサーは、人間を不老不死にする薬である。

しかし、錬金術は、賢者の石を作り出せなかった。その代わり、さまざまなものの性質や反応などを研究する化学を生み出した。

十八世紀には、元素の考え方が変わった。十九世紀には、元素の正体が原子であると考えられるようになった。これらの考えをもとにして、化学はどんどん発展していく。

二〇一六年六月九日、日本で新たに発見された元素のニホニウムが発表された。ニホニウムは人間によって作り出された元素である。このような現代の化学こそ錬金術と考えられないだろうか。